

水曜通信 25

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2019年
9月

第25回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2019年9月18日（水） 18:30-19:00



説教：大西 晴樹（本学学長）

奏楽：今井 奈緒子（本学教養学部教授）

<礼拝次第>

前 奏：H. パリー「Eventide タベ」

讃美歌：39番「日暮れて四方は暗く」第1,3,5節

聖 書：マタイによる福音書 13章1節-9節

讃美歌：讃美歌21 53番「神の御言葉は」

説 教：「シュネーダー先生の理想」

頌 栄：540番「みめぐみあふるる」

後 奏：今井奈緒子 コラール編曲「扉を開きて」

後奏の後、今井奈緒子によるオルガンと菅英三子氏（東京藝術大学教授）の独唱による賛美を行います。

次回第26回水曜礼拝は10月16日です。

第25回 水曜礼拝報告 (説教：鐸木 道剛、奏楽：大泉 真理)

2019年7月17日(水) 18:30-19:00

讃美歌：讃美歌第二編150番「あめなるよこそび」
聖書：コリントの信徒への手紙一 13章12節-13節
讃美歌：聖公会古今聖歌集増補版
1番「あなたの平和の道具にしてください」
説教：「礼拝：イエスとの出会い」
頌栄：539番「あめつちこそぞりて」

【説教要旨】



米国ランカスター神学校
聖フランチェスコ像のハネル

2曲目の讃美歌のテキストは13世紀の聖フランチェスコによります。その冒頭の「あなたの平和の道具にしてください (Make me an instrument of your peace)」は、我が東北学院の母校ともいべきランカスター神学校の中庭にある聖フランチェスコの記念碑にも刻まれています。また選んだ聖書の最後の一文「信仰と希望と愛、最も大なるものは愛」(13節)は、13章を通してパウロがずっと「愛」について語ってきた文脈で「愛」とともに「信仰」も、また「希望」も重要であると説きます。「信仰」よりも「愛」、それは論理よりもまず感動ということ。感動を論理的に説明するために教義のうちに体系化されたのです。また「希望」とは何でしょうか？それはエマオの晩餐の後で弟子たちが言い合ったように「心が燃える」(ルカ24:32)、またヨハネが記すように「喜びが満ちあふれる」(ヨハネの第一の手紙1:4) 希望です。つまり人となられた神であるイエスに再び出会う希望です。そして礼拝とは、イエスが最後の晩餐で「わたしの記念としてこれのように行いなさい」(ルカ22:19)とおっしゃったように神の愛に出会うことに他なりません。(鐸木道剛)



前奏：J.S.バッハ「愛しきイエスよ、我らはここに」BWV730、731
後奏：J.S.バッハ「人はみな死すべきさだめ」BWV643

前奏のコラール「愛しきイエスよ、我らはここに」は説教前に歌われる讃美歌です。バッハは、このコラールを主旋律として美しいコラール編曲を書きました。天を仰ぎ見、祈りへと導かれるようです。前奏の2曲以外にも同じコラールによる編曲を残しています。(BWV633、634、706)。後奏のBWV643はバッハのオルガン小曲集、死の連作の1曲です。バッハは、コラールの内容である「死の必然性とキリストによる復活の栄光」を、音形を用いて巧みに表現しています。曲全体の印象は陰鬱ではなく、慰めと安らぎ、希望に満ちています。(大泉真理)

礼拝とその後の19時00分から30分までの大泉真理氏のオルガンによる讃美歌の演奏と松田千津子(本学就職キャリア支援課)の朗読に50名の市民が参加されました。

礼拝後、讃美歌のオルガン演奏・ 解説・朗読・会衆賛美による讃美

- オルガン演奏：「主の招く声」による即興曲 作曲：ハク・ファン・デア・フィン
- ①讃美歌21 516番「主の招く声が聞こえてくる」 詞：フレッド・P・グリーン 曲：ヒョーン・ト・パリ
- ②讃美歌 9番「力の主をほめたたえまつれ」 詞：ヨアヒム・ネンダー 曲：古いドイツ民謡
- オルガン演奏：「Processional 行列聖歌」讃美歌9番編曲 作曲：マティン・E・ショウ

30代の若きオルガニストが、瑞々しい感性で「主の招く声」を即興演奏した曲を最初に弾きました。松田千津子さんにナレーションをお願いし、讃美歌の歴史と背景、歌詞の朗読がなされ、特に歌の詞がしっかりと心に刻まれていきました。オルガンの伴奏をしながら、皆様の生き生きとした賛美の声が聞こえてきました。讃美歌9番「力の主をほめたたえまつれ」は、E.ネアンダーが失職し逆境の時、詩編103編が浮かび作詞されたと伝えられています。伸びやかな旋律にのせて賛美する私たちの心にも、力強い神に支えられた喜びが伝わってくるようです。さらに力強く重厚な和音が続くオルガン曲を最後に弾きました。讃美歌の持つ様々な美しさ、豊かさ、力強さを会衆の皆様と共に味わうことができました。(大泉真理)



“FAITHFUL UNTO DEATH” (完)

「金子謹三 — 歴史の架け橋として —」

8月8日の夕方、ランカスター神学校のリッチ学長をはじめ4名の神学部関係の方々と私たちは、ランカスター公共墓地の金子謹三の墓前に集まりました。司式を行った学部長のメロット教授が、金子の人生と彼を支えたアップル教授やホーイ等の存在を神の「贈り物」(gift)として感謝し、「この関係と絆が今後も永く続くよう我らを祝福し給え」と祈りを捧げた後、献花を行いました。

金子の小さな墓は、その3年後に亡くなった恩師アップル教授の大きな墓石の傍らに、寄り添うように残されています。そして、その背後には、金子の死の翌年の1896年に花巻の両親が記念として送った一本の銀杏が、巨木に成長して包み込むように見守っています。ランカスター墓地にある金子謹三の墓石は、新たに協定を結んだランカスター神学校と



アップルの墓と金子の墓

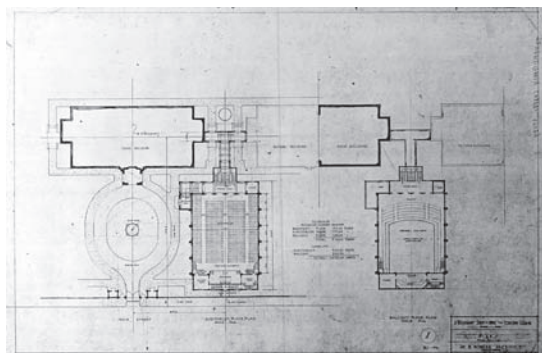


墓地での記念礼拝

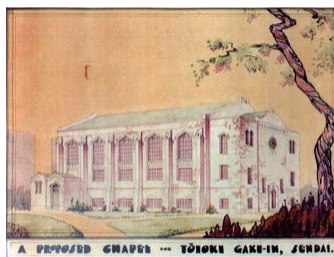
東北学院とをつなぐ印であるだけでなく、キリストを信じて、死んでもなお生きるキリスト者の証しとして、これからもあの地に置かれています。(東北学院史資料センター 日野 哲)

— 建築との対話：礼拝堂建築調査の現場から (2) —

調査の結果、礼拝堂に関してJ.H.モーガン建築事務所が作成した図面が、約80点確認されました。最も古いものは、“試案”と題された、1926(大正15)年2月25日付の図面です。この時期は、旧専門部校舎(現本館)の工事途中にあたりますので、丁度その頃、礼拝堂の建築についても、具体的な検討に着手され始めたことが判ります。現在の姿と比べると、ステンドグラスが無いなどの点に顕著な違いを確認できます。計画の変遷過程を教えてくれる、貴重な記録と言えます。(崎山俊雄)



J.H.モーガン建築事務所による礼拝堂の試案(東北学院史資料センター蔵)

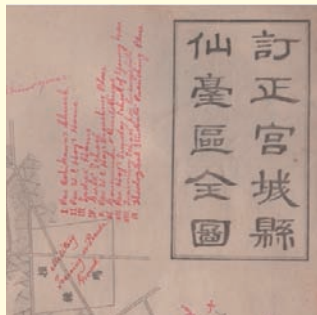


1926年3月4日付の礼拝堂透視図
(作者不詳、東北学院史資料センター蔵)

— ランカスター神学校での発見 (10) —

「明治17年の仙台地図」

資料の大きさからカメラで撮影せざるを得なかったものの中に、「訂正宮城縣全圖」という一畳ほどの古地図があります。明治十七年四月十四日御届 同年六月廿日出版」の地図には、当時の教会や宣教師住宅などの情報が複数の人物（宣教師）によって鮮やかに朱書きされています。



明治17年仙台地図

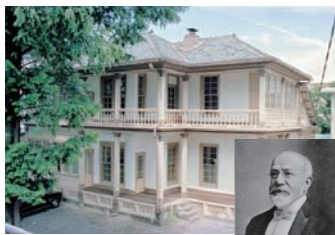
最初の書き込みは筆跡からホーイの手によるもので、当時のホーイの住居（南町通り）や仙台教会（国分町）などの位置を考慮すると、年代は1886（明治19）年11月から翌年の5月の間と思われます。他にも少なくとも二人（一人はシュネーターか？）の筆跡が見られ、いずれも1890（明治23）年頃までの記録です。

中には明らかに間違った位置を示しているものもありますが、ホーイや神学生が伝道活動を行った地区や、新島襄を校長として開校した東華学校（1892年廃止）の場所などが特定され、東北学院草創期の貴重な記録が書き込まれています。

（東北学院史資料センター 日野 哲）

東北学院史資料センター×東北学院大学研究ブランディング事業合同主催公開シンポジウム 「重要文化財『デフォレスト館』の価値について」開催のお知らせ

東北学院大学土樋キャンパスに現存する国内最古級の宣教師館である『デフォレスト館』に関する今回のシンポジウムでは、その価値や魅力、そして保存に向けた課題について、建築史学・文化財保存学の研究者たちによる講演と討論を通じて、皆様にお伝えしたいと思います。



重要文化財
『デフォレスト館』

J・H・デフォレスト
(1844～1911年)

2019年9月28日（土） 14:00～17:00

土樋キャンパス/8号館5階 押川記念ホール

●第1部 基調講演「デフォレスト館の価値について」

- 野村 俊一（東北大学大学院工学研究科准教授）
- 足立 裕司（神戸大学大学院工学研究科名誉教授）
- 是澤 紀子（日本女子大学家政学部住居学科准教授）

●第2部 ディスカッション

- ・モデレーター
崎山 俊雄（本学工学部准教授）
- ・パネリスト
野村 俊一（前掲）
足立 裕司（前掲）
是澤 紀子（前掲）
後藤 治（工学院大学理事長）
関口 重樹（宮城県教育庁文化財課技術主幹）

※当日、12:30～13:00に本学工学部の櫻井一弥教授による、重要文化財『デフォレスト館』についての現地解説もあります！（申込不要）

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信 第25号

2019年9月2日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/